

「強制収容所のバイオリニスト」編者と交流

旅行代金 2018年7月3日 発 298,000 円
 2018年8月14日 発 319,000 円
 2018年10月9日 発 298,000 円
 一人部屋追加料金 35,000 円

定員 20 名(最少実施人員 10名) 添乗員同行

申込み締切: 出発の1か月前

日次	月日	曜	都 市	現地時刻	交通機関	摘 要	〈宿泊地〉	食事
①	7月3日	火	成田または関西発 中東都市経由	夕刻	航空便	集合: 成田空港(19時30分ごろ)、関西空港(21時30分ごろ) 予定 空路、中東都市経由して乗り換え、ポーランドの首都ワルシャワへ	〈機中泊〉	B-X
	8月14日	火		L-X				
	10月9日	火		D-機				
②	7月4日	水	ワルシャワ着	午後	専用車	着後、ワルシャワ市内見学 1944年に起きた占領中のナチス に対する武装蜂起の歴史を今に伝えるワルシャワ蜂起博物館、 大戦中の爆撃で破壊された街並みを”ひび1つまで”市民が復元した 旧市街(世界遺産)、第二次世界大戦時に市民がドイツ軍に対して 一斉蜂起したワルシャワ蜂起記念碑 を見学	〈ワルシャワ泊〉	B-機
	8月15日	水		L-X				
	10月10日	水		D-RL				
③	7月5日	木	ワルシャワ	午前	専用車	「歴史と出会う家」を訪問し、ドイツとポーランドの 歴史教科書共同制作や歴史教育について懇談	〈クラクフ泊〉	B-H
	8月16日	木		L-X				
	10月11日	木		D-X				
④	7月6日	金	クラクフ発 オシフィエンチム着	午前	専用車	アウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所を訪れ、 ナチス・ドイツによって収容されたたくさんの収容者の写真や 遺品が展示してあるアウシュビッツ強制収容所跡と、当時を想起 させるバラック小屋や慰霊碑が並ぶビルケナウ強制収容所跡を見学	〈クラクフ泊〉	B-H
	8月17日	金		L-RL				
	10月12日	金		D-RL				
⑤	7月7日	土	クラクフ	午前	徒歩	第2次世界大戦の戦災をまぬがれ、中世そのままの街の趣を 残すクラクフ旧市街(世界遺産)見学	〈ワルシャワ泊〉	B-H
	8月18日	土		L-X				
	10月13日	土		D-RL				
⑥	7月8日	日	ワルシャワ発 中東都市発	午後	列車	陸路、列車にて再びワルシャワへ	〈機中泊〉	B-H
	8月19日	日		L-機				
	10月14日	日		D-機				
⑦	7月9日	月	成田または関西着	夕刻		到着後、解散		
	8月20日	月						
	10月15日	月						
B=朝食付、L=昼食付、D=夕食付、機=機内食 H=ホテルで RL=市内レストランで 機=機内食 OP=オプション・ツアー(希望者参加の小旅行、別途料金) サ=サンドイッチ 弁=弁当 ●=入場して見学、◎=下車して見学、○=車窓から見学								

ツアーの特色

- ◇アウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所をガイドの案内でしっかり見学
- ◇「歴史と出会う家」でポーランド・ドイツの共同歴史教育について懇談
- ◇ユダヤ音楽を楽しめるお食事や、オプションでショパン・ピアノコンサートにご案内

利用航空会社

エミレーツ航空、カタール航空、トルコ航空 など

利用ホテル

都市名	ホテル名(★クラス)
ワルシャワ	メトロポリ、カンパニール、ノボテル、アストリア、MDM ★★★
クラクフ	ホテル ポロニア、アンテルス、マテイコ ★★★ または同等クラスのホテル

旅行代金に含まれるもの

- 国際航空料金 (エコノミークラス)
- 旅程表に明示したバス・列車・船等の料金・宿泊料金・食事料金
- 航空機による手荷物運搬料金
- 旅程表に明示した見学地のガイド料、入場料、チップ
- 添乗員同行費用

旅行代金に含まれないもの

- 超過手荷物料金
- クリーニング代、電報・電話代、心づけ、追加飲食等の個人的性質の諸費用
- 空港施設使用料、保安料

成田空港	2,610 円	関西空港	3,040 円
------	---------	------	---------
- 燃油付加運賃

	14,000 円	(2018年3月現在)
--	----------	-------------
- お一人部屋追加料金

	35,000 円
--	----------
- 国内における集合・解散地までの交通費・宿泊費
- 空港税等

	6,560 円	(2018年3月現在)
--	---------	-------------
- 渡航手続費用: 旅券印紙代
- 傷害、疾病等に関する医療費、任意の旅行傷害保険料



▲アウシュビッツ強制収容所跡の「働けば自由になる」とかかれた門



▲ビルケナウ第2収容所跡
この線路を人々は貨物列車にのせられて運ばれてきていました



▲ワルシャワ蜂起後、ナチスにより徹底的に破壊された旧市街。戦後、市民の手によりひび1つまで忠実に再現された美しい街並みです



▲『ポーランドの古都』とよばれるクラクフの旧市街の中心、市場広場